

帯広市産業振興会議 第1回ものづくり・販路拡大部会 議事要旨

日時：平成26年7月30日（水）

会場：かじのビル3階会議室

1. 部会長の選任について

事務局より後藤健市委員の部会長就任について案が示され、満場一致で承諾された。

2. 帯広市産業振興ビジョンの概要と経緯について

事務局より、資料2に基づき説明があったのち、委員より質疑等があった。

■落合委員

人材に関する課題は必要不可欠。女性の活用など、どこかで議論できれば。

■柴田委員

人材は切実な問題。会議所でも真っ先に出る懸案。資料2に施策の柱が5項目あるがまずは人だと思う。

■有働委員

業務のすべてを機械化できない。技術の伝承、次の世代につなげるための人を育てていかなければならない。いかに若い人を育てるか。なかなか育たないのが現状。

■松永委員

非常に素晴らしい資料で、ここから問題が見えない。これまでの取り組みやその成果を見た上で議論していきたい。

■中村委員

ものづくりのなかの農商工について、市内にも優秀な農家、経営者いるが、どちらかというと近隣町村、十勝という大きな範囲では活発に行われている。そういうところと市との関わりを聞いていきたい。

3. スケジュールについて

事務局よりスケジュールについて説明があった。

■松永委員

アンケートの回答を見ると、卸・小売と建設が多い。

■事務局

建設業と製造業は全社に送付している。卸・小売は6,000社から抽出した。

■松永委員

ものづくり産業の活性化のなかでも「人材が足りない」が主な要因になっているが、人手が足りないのか、人財が足りないのか。

■事務局

今一気に仕事が増えるなかで人手が足りないのか、技術を伝承できる人財が足りないのか、おそらく両面が見られると考えている。

■事務局

中村委員からの質問について回答する。

資料5右側進捗状況の基本施策11において、農商工連携の実施状況を紹介している。小麦キャンプなどを通じて、地域をあげた連携支援を行っている。

個々の企業についても、域を超えて関わっているところも見られる。

■後藤委員

資料5の右側にある評価は5点満点か。

■事務局

第2期の委員において、各委員が自分にとって優先的な事業に対し、4点満点で評価いただいたもの。

■有働委員

帯広に来たらあれが食べられるぞ、といった、豚丼に続くものが必要ではないか。

たくさんおいしい食材はあるが、活かされていらないように感じる。

■事務局

平成20年に十勝枝豆サラダ麺というものがあったが、地域になじまず消えていった。

■落合委員

この地域には帯広畜産大学も含め多くの試験研究機関があるにも関わらず、あまり利用されていない。農業畜産に携わる大学があるのだからもっと活用する。地域への協力を大学も求めている。オール十勝の見地に立ち、畜大など試験研究機関をもっと活用する必要がある。

■後藤委員長

産業振興ビジョンは帯広だけでなく、十勝全体を含めて考えていいのか。

■事務局

十勝全体を視野に入れている。中小企業振興基本条例でも、帯広・十勝と表現している。

■柴田委員

食に騒ぎすぎているように感じる。会議所の工業委員会でもフードバレーを取り上げている。工業でなぜフードバレーか。逆に食から少しはなれたほうがいいのではないか。歴史ある豚丼に B 級とかやる必要はないのでは。誘致など考えながら、良い企業が来ると人も集まる。人が集まる町になれば、町としても成長する。視点を変えたほうがいい。

■事務局

まさに、柴田委員をはじめ食品関連企業以外の委員に入っていたいただいたのは、視点を広く持つことを目的にしている。

■松永委員

十勝はやはり食とを感じる。食べ物もそうだが PR も含め格段に良くなった。唯一心配なのは TPP による先行きと、個々の農家さんの話を聞くと切実な農家さんもいるため、その拾い上げは必要だが、全体を見るとかなり好循環な流れを感じる。

■中村委員

十勝は圧倒的に原料産地。ロットが大きいので帯広のような人口規模では商売したくないという人も多い。小麦キャンプのようなイベントが出来る背景には、山忠をはじめ地元で粉を挽く仕組みが出来たということがポイントになっている。他の作物も誘致などして、地元で一次加工できるようになれば、大都市圏や地元に対して出していけるし、色々な商品に変わっていくのでは。

■落合委員

柴田委員のご意見は非常に貴重。中村委員が言われるように、圧倒的な原料産地で工業とどう繋げていくか難しいが、十勝を大きく見つけ農業のみならず、個人経営で工業技術を持っている小規模な事業所の方にもご参加いただいて意見をもらうことも必要と感じる。どうしても基盤である農業に視点が行くが、農業以外の視点は必要。

十勝の商品を海外に販売することが必要。十勝に行きたがる外国人は多い。我々が見ている魅力とは全く違う視点から十勝を見ている。十勝の人口 36 万人ではマーケットの限界が見えている。

■有働委員

ものづくり HACCP や ISO などあるが基本は 5S がしっかり出来ていないと、良いものづくりは出来ない。勉強会など社内的に行っているが、人を変えていかないといけない。不況でもつぶれないような体質に改善する必要がある。以前振興センターで 5S の講習会を行ったが、鉄工関係で参加した企業は 3～4 社のみだった。意気込みがないと人材育成は進まない。公的な勉強会がやはり近道では。

■後藤部会長

現在では海外が身近になっており、地域全体で動きも出ている。

シンガポールやハワイなど具体的に動いていて、特にハワイで小豆をベースに十勝フードチャレンジという企画が進んでいる。ハワイでは現在、農業の新しい形を作っていく動きがある。農業技術や農業機械を含めてハワイの農業は十勝から学ぶ部分が多くある。パイナップルやサトウキビが東南アジアに移ってしまい、農業再生をしないとハワイの価値を持続できない、十勝の知恵がほしいという動きになっている。連携して新しいものを生み出す動きになっている。今後部会でも情報提供させてもらいながら、農業のみならず工業も含めて議論していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。